

6次産業農家のデータ活用経営

NCC畜産ニュース

皆が幸せになるシステムを

地域全体で合理的な経営を行うには

「eagle farm」は昭和26年創業の伝統ある農家で、繁殖雌牛150頭余を飼育し、米、ブルーベリーなどの生産も行っている。また、15年前に新鮮でおいしい食材を直接提供したいという思いから、直営のレストランを始めたという。6次産業の先駆的な事業として有名となり、平成21年には内閣総理大臣賞を受賞するなど、数々の栄誉に輝いている。
今回は現在牧畜の責任者である鷲頭将治さんに、ITシステムで得たデータを活用した合理的な経営についてのお考えを伺った。

eagle farm (大分県九重町)



[のびのび放牧]↑ ↓[絶品の豊後牛]



由布院から九重方面に向かうやまなみハイウェイ沿いに「農家レストラン ベベんこ」がある。九重連山の雄大な景色を見ながら豊後牛を楽しめる人気の店だ。ただしこの店は普通のレストランではない。生産者であるeagle farmが経営するレストランなのだ。食材もほとんど自家製であり、生産から加工、流通、販売までを行う、いわゆる6次産業を実践している。

レ스토랑で豊後牛の焼肉丼をいただいたあと、少し離れた場所の牧場を訪れた。放牧を取り入れており、広い地域で牛を飼っている。2代目の鷲頭栄治さんが経営を引きついだのは平成元年で、その時は繁殖雌牛20頭の規模だったが、徐々に頭数を増やし、現在は150頭程度だという。

将治さんはデータを活用した経営をすることを重視しており、moopadをその標準ツールとして位置付けている。話を聞いてみるとそれは単にeagle farmだけでなく、地域の話をしていることがわかる。



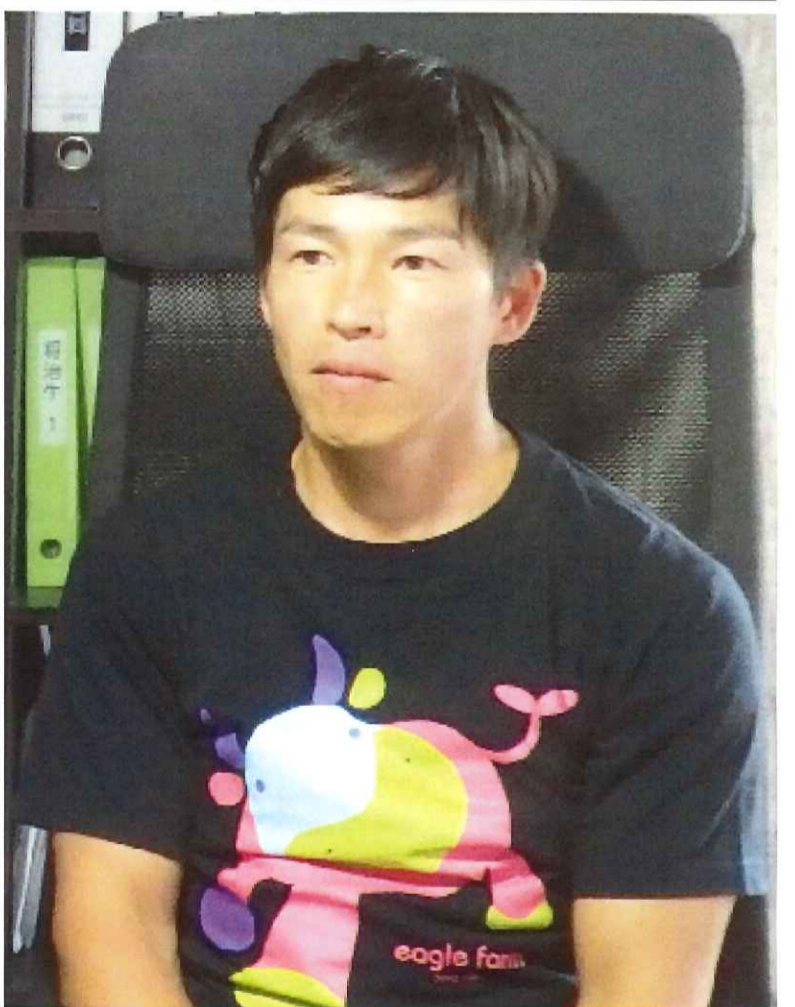
将治さんが言うには、「皆が使わないとダメ」とのこと。農業は地域に根ざしているもので、自分のところだけが良くなっても意味がない。いつもならこの辺でmoopadを使い始めた動機や経緯などから教えてもらうのだが、すでにシステムを使いこなしている様子を見て、moopadの位置付けとそれを使ってどういう農業が実現したのかを話してもらった。

地域全体で合理的な経営への

将治さんが言うには、「皆が使わないとダメ」とのこと。農業は地域に根ざしているもので、自分のところだけが良くなっても意味がない。

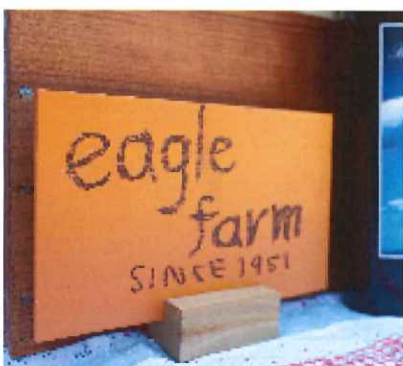
という。だから地域全体にデータに基づいた合理的な経営を広げていきたいと情熱を込めて語る。そのための活動も積極的に行っている。

moopadがさらに進化して、地域の標準ツールになってほしい、それだけのものを持つてほしい、それだけという。その基になっている良さは何だろうか？と聞いたら少し考えて「皆が幸せになるシステム」だと言った。



eagle farm・鷲頭将治さん

やるべきことをやってきたからこそ、しっかりと利益を出しているからこそ、「面白いことをやる」と言えるのだと思った。



6次産業の成功で重要なのは生産者である農家の経営力であるといわれる。その点でもしっかりと今までの伝統を受け継いでいるeagle farmを見て、さらに夢に向かって進んで欲しいと思った。

寄稿：中小企業診断士 北岡 正一

畜産農家の強い味方！ビッグデータで、もっとラクに、確実に！



【お問い合わせ】

株式会社日本コンピュータ
コンサルタント CS部
福岡市博多区博多駅東1-11-5 アサコ博多ビル8F
TEL 092-(411)-8259
担当：高倉まで